

飛鳥

2013年

春待号

第177号

かわら版

ASUKA KAWARABAN

発行所

飛鳥出版室

発行人 永野 正将

〒780-0945 高知市本宮町65-6

電話 088-850-0588

e-mail: info@asuka-net.jp

http://www.asuka-net.jp



『 巳 』

岡崎 桜雲



4月2日(火)～7日(日)

桜雲書道会百人展 開催

詳細は7頁をご覧ください

年頭にあたりおもうことつれづれ ~2013~	2
出版物紹介.....	4
言葉を紡ぐ 1	6
催し物掲示板.....	7
わが家の太郎 [㊦]	永野雅子 8

誠に勝手ながら連載記事はお休みさせていただきます。ご了承下さい。

飛鳥「かわら版」は、あらゆる世代の自分史・個人誌作りを応援します。

年頭にあたり おもむくこと つれづれ 〜二〇一三〜



新しい年を迎えました。
また一年、気持ちも新たに社員一同日々「生懸命
に過ごしましょう！」
……ということで、年始にあたってみんなの胸中
を文章にしたためてもらいました。ひとりひとりに
とって、二〇一三年はどんな一年になるのでしょうか。



新年あけましておめでとございます。
旧年中は飛鳥をご贖いいただき
本当にありがとうございました。

毎年このことながら、無事に一年
を終え新しい年を迎えられること
の幸せを、当社を支えてくださる
皆様あつてのことだとしみじみと
感じております。

私事ながら本年の目標としまし
ては「もつと笑顔」を心がけて参
りたいと思っています。

というのも昨年末、冬休みで会
社へ見学に来ていた九歳の長女が、
家に帰った私にこう言ったのです。
「お父さんはどうして会社でム
スツとしちゆうが？ 社長さん
はもつと「ニコニコ」しよらんと
いかんで！」と。その言葉に「は
つ」とさせられました。自分自身
はそんなつもりはなかったのです
が、業務や経営の事で色々考える
うちにいつの間にか「笑顔」が消

えムスツとした表情になってい
んだと気付かされました。社員の
皆さんは恐らく「社長はこういう
感じなんだ」と慣れてしまってい
たと思うと本当に申し訳ない限り
です。

今年とはかく「明るく笑顔で
いく」と昨年末の当社の忘年会で
も社員の皆さんにしっかりと宣言
をしました。その矢先になんと、
あるうことか私のズボンの社会の
窓が壊れ全開になるというハプニ
ングもありましたが、社員の皆さ
んからは「社長！ これは来年は
全開で行かないかんという事よえ」と
言われ一層がんばらうと心に思
った次第です。

「笑門には福来たる」
本年も飛鳥をよろしくお願い申
しあげます。

株式会社 飛鳥
代表取締役 永野 正将

飛鳥で最年長の私は、とに
かく元気で、社員の皆さんの
健康や明るい職場の雰囲気作
りに力を貸したいと思えます。
夜食のおにぎりもせっせと作
ってまいりましょう。仕事も
まだまだ現役、とても日向ぼ
っこやお昼寝は出来そうにあ
りませぬ。

永野 雅子

昨年も多くの方々に助けて
いただき良き一年となりました。
本当にありがとうございました。
お返しが出来るように努力し
ていきたいと思えます。また
近年、冷え性になり、その対
策が緊急の課題です。お伺い
した時は温かい言葉で暖めて
ください。

川田 道彦

二〇一三が始まりました。
箱根駅伝を見て思ったのです。
一〇区一〇人が走っています
(かつこいいです)が、選手
を支える人(先輩、後輩、同
級生等)がいてこそ。飛鳥も
同じ。誰かが欠けてもいけな
い。その中の一人として、コ
ツコツと焦らず、騒がず(無
理かも)、進んで行けたら本
当にそれが一番いいな。

中内 清子

今年も楽しい仕事をばっばん頂きたいと思っています。
『仕事は楽しくなくては仕事ではない』をモットーに今年も頑張ります。

追伸 私事ですが、今シーズンに尾長グレを釣りたいと思っています。出来れば魚拓が取れる(六〇センチ)サイズを狙っています。
黒原 幸成

過去には、「朝早く来る」とか「断捨離したい」とか「筋肉が欲しい」という目標を唱えたような気もするけれど、思うだけでちっともともならんし、なんかもう疲れたし、今年は何・セラ・セラでボレボレ(古い!)といこうかな。
嶋崎喜代子

一回しかない人生を充実して終わるように健康な体でいたい。
楽しく飲んで元気に過ごしたい。
釣りもしばらく休息していたので、今年の春はコッパグレやイカでも釣りに行ってみるが。
岩井 文夫

去年、家族で東京デイズニールランドへ旅行しました!!
六年間五〇〇円玉貯金をコツコツと貯めて、やっと念願のデイズニールへ。何事もコツコツとやればいい結果、そして楽しいこと、うれしいことがあります。二〇一三年もコツコツ精神を忘れず!? 頑張ろう!! と思ったしだいです。
永野 美佐

虹の玄関、七月頃になると、雨が降って、雲が出て、その雲の間から、太陽の日差しが、西日となつて、会社の玄関に差し、虹になつて、トイレの方向や、タイル、階段方向に見事に五色になつている。
虹でした。虹が入ってくる飛鳥の玄関でした。
武村 修

日頃から少しずつすれば済む事は解っているけれど、なかなか予定通りにはいかない。子育て真っ最中の娘たちの用事をつい優先させ、年末の掃除はそこそこになつた。今年ももっとゆとりを持って、仕事の上でも「整理整頓」を日々心がけていきます。
浜田 慶子

毎年思うことだけれども、年々体の無理がきかなくなっている。やはり健康第一でいきたいと思っています。

中村 和史

今年の抱負

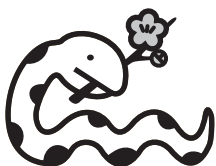
一日一日を大切に過ごす
(昨年は私の身にいろんなことがあつたので)

西本 久美

昨年の自分はと言えば、単純な計算も計算機に頼りきり、たまに使わず計算しても合つてたか心配になり結局機械を使い。少し走れば息切れ、姪っ子を抱っこすれば腕は筋肉痛に。これではまずいと思うので、二〇一三年は脳力と体力作りに励む年にしたいと思います。
平山 舞

二〇一三年の抱負は、働き始めてから年々本を読まなくなつてしまつたので、今年の本や漫画を積極的に読もうと思います。いつも好きな作家さんの本ばかり読んでしまふので今まで読んだことがない作家やジャンルの本に挑戦したいです。
谷本 彩

もしかして自分はテツ子なのでは!? と思いはじめた(青春18きっぷで旅したり、急にくるしお鉄道に乗りたくなつたりする)わたしですが、高知をもっとうるうるして高知をもっと知りたい! そして高知のよき文化を発信できたい。年女の一年、しぶとくいきます!
上月ちあき



出版物紹介

戦国刀匠譚

この本は、生まれ育った土佐で子ども頃に人生の師と出会い、刀剣鑑賞の指導を受け、県外に就職してもなお刀剣を愛好し続けて来た著者による、刀剣が最も多く消費された戦国時代の刀鍛冶と、既に世を去った師の顕彰を目的として出版された作品。

専門用語の説明にも細かく心が配られ、刀剣に興味のある方はもちろん刀の事を全く知らない方にも分かりやすく、理解しやすいものとなっております。物語としても大変面白く、同時に師に寄せる著者の思いを刀鍛冶の師弟関係に置き換えて、単に技術の伝承に止まらない師弟の強い絆と交流を描いた回顧談でもあります。



A5判 二二四頁
著者 式部 静
発行所 飛鳥出版室
定価 一、五〇〇円(税別)

二〇二二年下半期の出版物を一挙ご紹介
(価格のないものは販売できません。貸出はいたします)

もんちゃん
なかないで



B判変形 一八頁
著者 山下 春代
発行所 飛鳥出版室
定価 一、二〇〇円(税込)

作者である山下さんが長年習ってきた切り絵で作られた作品です。

もんちゃんは小さな男の子。毎日大好きなお父さんの帰りを心待ちにしています。しかしある時から、その大好きなお父さんが帰ってこなくなりました。悲しくて泣き出したもんちゃんの耳に聞こえてきた音とは...? その音に導かれて歩いていった先でもんちゃんが見たものは...? 暖かな雰囲気の中にも芯の強さを感じさせる作品。切り絵の独特の世界観と一緒に味わってみてください。

私本

長宗我部興亡記

本著は、土佐の中世を彩った長宗我部氏の栄光と滅亡の歴史を、その時代を生きた人々の人間模様を織り交ぜながら、著者独自の視点で多角的に展開した超大作です。著者である尾崎さんは高知大学の元副学長で、在職時代から歴史を趣味としており、高知大学医学部を退職後、約四年の歳月をかけて本著を執筆されました。

好評につき
第二版が発行されます!

A5判 五四三頁
著者 尾崎 登喜雄
発行所 飛鳥出版室
定価 二、〇〇〇円(税別)



ふれあい
コーナー

『私本 長宗我部興亡記』を出版された尾崎先生からパンジーの苗をたくさんいただきました!

グリーンカーテンが終わってから寂しかった飛鳥のペランダが華やかになりました。園芸部長(前号参照)にも引き続き頑張ってもらっています。



目を覚ませ日本!

21世紀の龍馬よ!

李登輝元総統・魂の提言
「坂本龍馬財団」李登輝元総統
快気祝い表敬訪問記



新書判 二四〇頁
発行所 一般財団法人龍馬財団
印刷 飛鳥
定価 一、〇〇〇円(税込)

日本占領下の台湾で生まれ、二十二歳までまさに日本人として、その精神性を育んできた李登輝氏。さらに、龍馬の船中八策にならって台湾の無血革命を成し遂げた、まさに「台湾の龍馬」ともいうべき偉大な政治家でもある氏が、日本人が大好きだからこそ、今の日本を憂い、新時代の龍馬の到来を強く願って、訪問団を前に熱く語った講演内容のすべてを収録。この本では講演録だけでなく、三十五人の訪問団員が、それぞれの感性で氏の人間的魅力を語っていることにあり、氏の講演の中には、これからの日本の舵取りを誰に託せばよいのか、そのヒントにもなる言葉がたくさん含まれています。

自伝史

結 (ゆい)

本著は、高知県日本共産党後援会事務局長をされている仁尾さんが、自身の生い立ちから共産党との出会いを経て入党し、現在に至るまでのできごとを綴った自伝史です。

ご本人が「面白いことを中心にまとめた」とあとがきで述べているように、選挙戦にまつわるこぼれ話や日々の党員活動の様子など、仁尾さん独特の視点と筆致でおもしろおかしく描かれています。特に、巻末に余話としてまとめられた仁尾さんとその周りに現れるさまざまな動物との交流を描いた話では、あたたかな雰囲気におもわずクスツと笑ってしまうかも。

A5判 一五〇頁
著者 仁尾 昭敏
制作 飛鳥出版室
私家版



ふる里を愛した

上林暁

かんばやしあかつき

高知を代表する小説家、上林暁の功績を、新聞へ寄稿した文章を中心にまとめた一冊。上林暁は高知県幡多郡黒潮町(旧・大方町)出身の私小説家で、「ブロンズ的首」で第一回川端康成文学賞を受賞、その他、ふる里を題材にした小説を多く残し、「最後の私小説家」として評価を得ています。

野並さんは、父親と上林暁が同じ在所の仲であったことから、生前の上林暁とも交流があったからこそ分かる、上林暁の人物を伝える作品となっています。

巻末には上林暁の妹・睦子さんから譲り受けたという上林暁の未発表作品も収録。

A5判 一七五頁
著者 野並 浩
制作 飛鳥出版室
私家版



そしてこちらは、いつもかわら版に「いろいろかいる」を書いて下さっている安藝さんの奥様、洋子さんお手製の木目込み干支飾りです。
なんて細かいのでしょうか!
毎年何ヶ月前からひとつひとつ手作りされるそうです。当社の二階事務所へ上がる階段の途中に飾ってありますので、ぜひご覧下さい!



言葉

を紡ぐ 〈1〉

昨年二月、『一枚の絵葉書』で第56回高知県出版文化賞を受賞した小谷了一さん。その後、『書く』ということに興味を持つようになり、さまざまなエッセイや短歌を執筆し、それらが各方面で入賞されています。今回は興味を持つきっかけとなった処女作『一枚の絵葉書』から一部抜粋し、掲載します。

『一枚の絵葉書』



A5判 242頁
発行 飛鳥出版
価 定 1,500円 + 税

大正生まれでいごっそう(土佐弁で「がんこもの」の意)である父の生き様を、父親が残した短歌を織り交ぜながら、父、母、それを取り巻く家族の悪戦苦闘の日々を赤裸々につづった作品。

母がアルツハイマー病になり、父から「お前の親である、ゆえにこれからは母の面倒はお前が看よ」と命じられる。母は「まだらボケ」と呼ばれる状態で、万が一、介護認定をしてもらえなかつたら……不安と父の怒った顔が頭に去来する。そこでボケの練習を母に特訓するという一計を案じ……



翌日には本当の介護認定調査員が市役所からやって来た。妹が調査員を迎え、調査員は予定どおりに母の枕元で多くの質問をしていたが、母はすべて「忘れてしまいました」と練習どおりに答えてくれた。完璧な演技であると思いたいが、上手すぎてこれは本当にアルツハイマー病が進行しているのではないかと不安が襲った。

調査員が帰る準備をし立ち上がると、母は布団から首を出し私たちに、「終わったかな？」と得意げに笑みを浮かべ、起き上がったお茶を入れよとして、「と」ここで、あなた達は誰？」と、なんども調査員に質問している。母はどこまで病気なんだろう？ これは演技かアルツハイマー病によるボケか、判断は非常に困難なところである。

専門医ではないながらも私は医者である。これ以上調査員に迷惑

を掛ける訳にもいかず、アルツハイマー病の診断根拠を示す義務と責任があると考え直した。どうしても身内の事になると個人の問題と、医者としての立場を混同するので気を付けなくてはいけない。しかし、医者は神様ではなく人間であるため、診断の付かない病気にも多々遭遇する事があり、それらを自律神経失調症という病名にしてごまかしてしまう傾向があるので注意が肝要だ。

今日もまた胸ふためくを
医者に問えば
老人性自律神経不調と言われる

アルツハイマー病と言う病気は治ることは無く長期化が予測され、多くの人々の協力を仰がねばならない病気であり、主観をまじえずに客観的に対処していく事が大事であると反省した。

アルツハイマー病かどうかの簡単なテストがあるので母に試して

みる事にした。まず紙とボールペンを渡し、「十時十分の時計の針を書いて下さい」と指示した。残念な結果ではあるが母の手は時計の針が書けず、ボールペンを握つたまま困惑した顔で指が震えていた。これはアルツハイマー病を診断できる簡単なテストで専門医以外の医者仲間でも良く用いられている診断法である。このテストによって母は真正正銘のアルツハイマー病である事実がはっきりと証明されてしまった。今回のように身内や私自身が病気を診断し、自分で自分や身内の病気を診断し、余命何日と解るとすれば医者ほど残酷な職業は無い。まして、母親が治る見込みのない病気を自分の息子に診断されるなんてあまりにも酷であり、病名や余命なんて私は知りたくも無いし、教えても欲しくない。

出来る事なら最後までいいは、父のように酒でごまかし我儘一杯に一生を終わりたいと思う。またそ

れが出来る父が羨ましい。

一夏を鳴くだけ鳴きて木下に骸ころがる蟬の一生の

父には調査員が来訪することを知らせずに散歩に連れ出していたが、運悪く帰り際に調査員と出会うてしまった。この時一瞬悔やんだが、後の祭りである。父は調査員に、

「一家の主人がいない時に来て、一番の理解者である私を除け者にして妻の調査するとはどういうことだ！ もう一度初めから調査をやり直せ」と怒鳴った。

私の立場はどうなるの！ ただただ調査員の人に頭を下げるしかなかった。

何時の時代の何時の時にも何処かに必ず悪い奴はいるなり

調査員が父に恐れをなしたとも思われぬが、後日連絡があり、母は要介護2と認定された。この調査は年に数回義務づけられていて、その時々々の病状によって介護度の変更される決まりになっている。これは当たり前で、医者として言わせて貰えば人間は機械では無い。一日の内でも時間帯に

よって症状は変化し、調査員の来訪時の状態によって介護度も変えられるのは当然ではあるが、調査員が常時監視する事は不可能である。

何度目かの調査の時、その日は母の症状が良くて介護度が要介護2から1に下がった事があった。父は例の如く(1)早速に市長に電話し、

「アルツハイマー病は治る病気ではない。それを素人が見て良くない」と判断するのは納得が出来ない。もう一度調査をやり直せ」と苦言を呈し、再度要介護度を1から2に戻してしまった。恐るべし

モンスター市民！

1 野良犬が自宅玄関前で死んでいるのを見つけた際に「市長に話をするのが一番の早道や」と、市長に直接電話し、死骸を回収するよう指示をしたという前歴のこと。



小谷 了一(おだにりょういち)

高知県四万十市出身。奈良県立医科大学卒業後、高知大学医学部助教授、高知県立中央病院放射線科医長等を経て、小谷放射線科・内科、クリニック土佐久礼を開業。現在、医療法人小谷会理事長。

企画展 豊かな森にすまうもの

～高知のコウモリ～

期間 開催中～3月3日(日)

9時～17時(入館は16時30分まで)

毎週月曜休館(祝日の場合はその翌日)

会場 越知町立横倉山自然の森博物館

料金 大人500円 高・大400円

小・中200円

各20名以上の団体1000円引



催し物案内板

1月～4月

第62回 桜雲書道会百人展

期間 4月2日(火)～4月7日(日)

9時～17時(入館は16時30分まで)

会場 高知県立美術館県民ギャラリー

第45回香美市立美術館企画展

やなせたかしイラストの世界

期間 2月15日(金)～3月24日(日)

9時～17時(入館は16時30分まで)

毎週月曜休館

会場 香美市立美術館

料金 一般300円

(20名以上団体料金150円)

長寿手帳提示 150円

身体障害者手帳提示 無料

高校生以下 無料

わが家の太郎 ②4

同居人 (?)

永野 雅子



去年の暮れ、家に帰るとご近所の奥さんが

「永野さん、市役所の人に来ていたよ」とい

「何だろうと、留守宅宛のメモを見ると、訪問調査・生活相談員とある。

電話をかけると、
「永野雅子さんですか？ 私は独居老人担当のものです。一度お目にかかってお話をしたいのですが……」

「エッ独居老人って私のことですか？ 申し訳ありませんが、留守をする事が多いので、電話ではいけませんか？」

「一人暮らしのご老人をお尋ねして様子をお聞きしたいので、電話では困るのです」

「……」

老人、老人と何度も言われて、だんだん不愉快になる。

「わかりました。空いた日に電話をします」

どうしても私の顔を見て確認をし、今後の相談の手順を説明したいと言

「考えてみれば、老人手帳をもらっているという事は立派な老人なのである。ここで変に力んでみても始まらない。ならば、年齢はどんなにしても積み重ねていくけれど、せめて元気にいきいきと暮らしたいと思う。

ところが最近、お医者様から「体重を減らすことを心掛けてください。それには歩くのが一番です」と言われた。

そんな私に、太郎は重要な役割を果たしてくれている。

たぶん太郎が居なければ、朝晩歩くことはまずしないだろうし、家に彼がいるだけで心強い。ベツトだって同居人なのだ。独居老人

などとは言われたくない。その後、担当の人に電話をして、「今日は居ますから、おいでください」と言

「永野さんご本人ですか？」
「はい、そうです」
「わかりました。そのお声ならお元氣そのものようですから面接の必要はないでしょう。何かあつたらお知らせください」とい

「さて、お正月を迎えて、にぎやかな全員集合も終わり、後片付けをしながら、何気なく体重計に乗ると、ショック！ 増えているではないか。

大好きなお餅や残り物を、もつたいたいと称してお腹に入れるのでこの始末。

太郎はと見れば、こちらも孫たちがでんでにおやつを与えてくれたので、すっかり口が奮ってしま

つて、ドッグフードには見向きもしない。
ここで負けてはならじと、いつもの食事を与えると、太郎も負けずに一切食はず、寒い中、外の小屋にこもって一晩中出てこないの

である。
この頑固さ、誰に似たのだろう。ま、いいが。元氣でいるためには、適度な緊張感も必要かもしれ

ない。
「お父さん、太郎はまるであなたみたいですよ」

(ながのまさこ／飛鳥常務取締役)